published by RAD

Paper Desk

for architecture & research

2009/5/15

Introduction of new concepts / Aboutのタグクラウド / 今、リサーチを考えるための10のトピックス / Aboutの短冊 / Aboutの自動書記

Report: Works:irodori / openlab.:ぼむ / Schedule: 今月のradlab.

リサーチのリサーチ
アバウトのアバウト

04

©ISHIKAWA Natsuko

works／irodori

4月18日は、京都の左京区で毎週「喫茶はなれ」を運営してきたhanareの3周年パーティー。その会場構成をRADが担当しました。当日は混雑が予想されたのでデザインの対象を天井面にしぼり、廃棄予定だった紙を2000枚天井に吊るしました。キラキラ光るプリズムの紙面に光が反射し、天井は虹色に変化。そしてこの紙に主催者からのメッセージを印刷し、これ自体をパーティのノベルティ「hanarepaper」にすることで、ゲストのみなさんに天井から紙を取っていただけるようにしました。時間の経過と共に光の加減が変化していく、パーティーにふさわしい華やかな雰囲気と、会話のきっかけとなるようなしかけづくりができていたら幸いです。hanareの重視する「日常」が大事になればなるほど、逆に特別な時間をどうつくれるかが大切になっていくのかもしれません。

協力：fromgraphic

openlab.／ゲストたかぎみ江さん

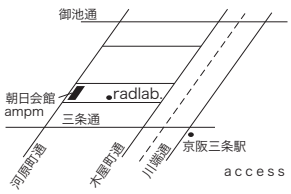
京都と東京をまたにかけ活動する建築ジャーナリズムユニット「ぼむ企画」。京都大学の学生だった00年に結成して以来、建築へのゆがんだ愛情と、「サービス、気の利いた、みておもしろい」という幾分関西的なノリでもって、建築界に独特の存在感を醸し出す。

そんなぼむ企画のたかぎみ江さんがopenlab.に登場。「ぼむ」という名の由来から、「建築家対決」をはじめとするネット上での活動、00年の伝説的イベント「ケンチクナイト」のことや、現在多く手がけられるイラストのお仕事の話まで、自らのホームページをプロジェクションしつつ（ときどきツッコミを入れつつ）お話して頂きました。どれも単に面白いに留まらない、独自の視点に垣間見えるキレを感じます。今後の興味は、建築の「おもしろさ」でなく「すごさ」をどうしたら伝えることができるかだそうです。

Schedule radlab.

詳しくはwebsiteで…

5/23(sat) openlab. 17:00 ～ 23:00
（ケンチクサロン）
5/31(sun) READ TANK 19:00 ～
（リーディングサークル）
6/6 (sat) openlab. 17:00 ～ 23:00
（ケンチクサロン）
6/18(thu)-7/5(sun)
rep radlab.exhibition project
（テンランカイ）
「a garden」
junko awatani
木曜日から日曜日 13:00 ~ 21:00
opening reception 6/21(sun)19:00 ~
(http://exhibition.radlab.info)



access

建築×リサーチで考える
Research for Architectural Domain
RAD
http://www.radlab.info
604-8005
京都市中京区河原町三条
恵比須町531-13 3F
tel/fax: 075-241-9126
e-mail: info@radlab.info

PaperDesk 4号 2009年5月15日
発行・編集・デザイン／RAD

切り取り線

料金受取人払郵便

中京支店
承認
9041

差出有効期限
平成22年5月
15日まで

切手は貼らなくていいですよ

6048790
888

京都府京都市中京区河原町三条
恵比須町531-13 3F

RAD PaperDeskメモ欄 係

よろしければご記入ください

お名前

メールアドレス

Introduction of new concept

for architecture & research

PaperDeskの新しいコンセプトは「建築とリサーチの関係を考える」です。

『そのあと』にも責任を持ちたいフリーペーパー

各号は一年おきに発行する「大PaperDesk」のための一歩となります。具体的には、大PaperDeskが掲げる全体的な「大テーマ」に対する「小テーマ」をそれぞれの号で取り上げます。そしてしかるべき歩数を経た後、それら小テーマについて「そのあと」に考えたこと、調べたことを踏まえながら、大PaperDeskで大テーマもう一度構成しなおします。なお、大PaperDeskはさらに続くその先への一歩としてあり、決して目的地ではありません。

あなたのメモを私たちに見せてください

ここで言う「そのあと」は、私たちだけのものではありません。そこでお願いです。あなたがこのPaperDeskを読んでいるときのメモを、私たちに見せてください。今号から紙面の一角をメモ欄としました。この部分を切り取り、ポストに入れて頂ければ自動的に私たちのもとへ届くようになっています。もちろん切手いらず。あなたがこのメモ欄に向かい、何がしかを刻み付けた痕跡を私たちに見せて欲しいと思います。内容に関係あるか否かは関係ありません。なお、このメモ欄のデザインは毎号変わります。

リサーチのリサーチ

そして今回の大テーマとして「リサーチのリサーチ」を掲げます。国民調査、アンケート、マーケティング、、、建築はもちろん、日々のあらゆる場面でリサーチは使われています。その結果が何らかのものに貢献をしていることは確からしいのだけれど、生み出されるものとそのリサーチとの間にはうまく言い得ない距離があるようにも思われます。私たちはそんなリサーチを自らのリサーチの対象として掲げ、このもどかしい距離への思考を展開していこうと思います。

リサーチのリサーチ
アバウトのアバウト

今回「リサーチのリサーチ」第一弾として「About」を取り上げてみたい。「architecture」「research」をキーワードに12の団体をピックアップした。この選択にその他の意図はない。これら12団体のウェブサイト上に掲げられた「About」の文章を、be動詞、代名詞、前置詞を除き、時制を整え約1400の単語に分解。これらをタグクラウドとして構成し直し、900を超えるタグへと分類した。上がそれだ。ここから頻繁に使用されている単語、使用されていない単語、そして注目したい単語を抽出するという作業をはじめた。各団体の「About」からは読み取りづらい、「architecture」「research」なる語によって結び付けられた諸団体の集合的な方向をひとつの軸として考えてみよう。

Aboutの短縮化

ここまで12団体の「About」まるごとをリサーチの対象に挙げてきた。ここでは各団体の特徴を意図的に少ない言葉で打ち出すという「About」の先鋭化を試みた。全体的な使用頻度が少なく、それでいて各々の色を示唆するような言葉と共に12団体の名称を紹介したい。詳細は次号以降扱っていこうと思う。

AMO
applies architectural thinking

Architecture Research Centers Consortium
research infrastructure

Architecture Research Institute. Inc
empowerment

Architecture Research Office
participation

Centre for Research Architecture
practice led theory

Crimson Architectural Historians
hybrid practice

Global Urban Research Unit
reveal complex ecological concerns

Movingcities
capturing the movements

OCEAN design research network
new paradigm

Roundtable: Research Architecture
platform

Urban Design Research Institute
supports interaction

Edinburgh Architecture Rersearch
strong peer-reviewed

Aboutの半自動書記

使用頻度の高い語を再構成してAboutの半自動書記を試みた。語の傍にある数字はその語の登場頻度を示している。この標準化されたAboutが示してるのは、リサーチについて最も濃縮された態度か、それともその形骸化した態度か。あなたならこの標準解に対してどのようなAboutを提示するだろうか？ なお翻訳は「Google Translate」を使用した。

○○ is a center16 for researching42 architecture38 and design24. We work26 for city26, and practice10 for contemporary7 architectural14 and urban16 issues11. Our goal is to understand6 and develop10 our environments9 through architecture38, art9, and design24. Members7 engage8 with practitioners8 from governments7 and other6 institutes13, and help deciding policy7 making6. We are planning9 various6 program10 for using6 public7 place6, and making6 community7...

○○は建築とデザインを研究するための中心地です。私たちは市の仕事と実践、現代の建築と都市の問題です。我々の目標を理解するのが、建築、アートを通じ、環境の開発、設計。メンバー国政府や他の機関からの専門家で、政策決定するとの決定に役立ちます。私たちは公共の場所を使用するため、様々なプログラムを計画しているとコミュニティです・・・

Aboutから見えてきた
今、リサーチを考えるための７つのトピックス

現在への熱視線

興味深いことに彼らの多くは過去にまつわる語をあまり使用しない。かといって未来を見通すヴィジョンもややぼやけがちのようだ。あえて言うなればその視線の先は現代の都市であり、まさにいま現在を覆う問題の方にあると考えられる。
past: 1time
traditional: 1time
history: 5times
contemporary : 7times
current: 5times
future: 4times
vision: 1time

保存への二の足

過去への意識の低さからか、建物保存に対する言及は少ない。ストックを活用することに対して二の足を踏んでいるようにも見られる。事実「生み出す」を意味する語の使用が目立ち、いわばリサーチを謳いながらつくることに重きを置くという独自の姿勢が現れているようにも思われる。
conservation: 2times
preservation: 1time
recycle: 1time
create: 10 times
construction: 3times
build: 4times

指揮者のように

「行う」を意味する多くの語の中でも、とりわけ“conduct” が用いられることが比較的多かった。そこには、リサーチ団体がコンダクター（指揮者）のような役割を担い、オーケストラのように多くの異なった分野の間を、人々のつながりを、まとめあげ導いていくというイメージが重ね合わされる。
conduct: 5times

語るな、動け？

「実践」を意味する言葉の多さが目立つ一方、対話をあらわす語の使用が少なく、「about」からはその重要性がなかなか前景化しない。別項で推測した“user”の不在を鑑みれば、ボトムアップの対話的な方針よりも、専門家らによるトップダウンの提言が重視されているとも読めるのではないだろうか。
discussion: 1time
dialog: 1time
talk: 1time
practice: 10times
realization: 1time

献身的な実践者？

“implement”なる語は、「道具［手段］を提供する」という意味を持つ。彼らは関係諸団体に対して計画決定の指針となるようなツールを与えるという役割を担っていると考えられる。有効で実行可能なツールを獲得するための実験として彼らの実践があり、それこそが現在におけるリサーチと言えるのかもしれない。
implement: 4times

ポリシー・メイク

政策に関連する単語が頻繁に現れる。おそらくここが建築とそのリサーチとの大きな違いであるように思われる。実際のデザインや計画を提案する以上に、政府機関等への政策を通じた関与が重視されるようだ。彼らのターゲットが多く示唆される点ではないだろうか。
policy: 7times
politic: 4times

ユーザーの不在？

建物使用者へのアンケートをリサーチの具体的イメージとして持っている人には意外なことかもしれないが、“user”という言葉はほとんど使用されていない。“government”“institute”等集団組織を表す語は多いが、個人や市民というその構成要素に対する視点が欠如しているように思われる。
user: 1time
citizen: 1time

memo PaperDeskを読んでいる最中、メモ（この感想、夕飯の献立等）が必要になったらここに書き込んで下さい。そして、できることならRADに送り返して下さい。切り取り線に沿って切り取り、ポストに入れるだけで大丈夫です。また、いただいたメモをweb上にて紹介させて頂くことがあります。ご了承ください。

memo data: 罫線(間隔:5mm / 線幅:0.25pt)